

令和2年度入学 編入学（推薦）試験問題の出典

社会福祉学部

種別	大問番号	著者名	著作物名	書名等	版元
小論文	—	好井 裕明	「あたりまえ」を疑う社会 質的調査のセンス	光文社新書, 2006年より pp.200-203	光文社

令和2年度 編入学 (推薦)

## 社会福祉学部

### 小 論 文 (120分)

#### 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、2ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 50 点)

①カテゴリー化とは何だろうか。いろいろな説明ができるが、また自分の息子の経験が思い浮かんだ。

彼が小学校の2,3年のころ、私に保育園での経験を話してくれた。「おとうさん、ぼくは保育園のとき、ままごとをするのが嫌だった。ままごとができなかった」と。単にその遊びが嫌だったのかと思いき、話を聞いてみると、なかなか興味深いものだった。

息子は「おとうさん」役をさせられたそうだが、その役にどうしても違和感があり、できなかったという。テーブルの前にあぐらをかいて座り、タバコを吸い、新聞を広げて、ご飯ができるのを待つ。何か「クレヨンしんちゃん」にでてくるリアルなままごとのようだが、とにかく「おとうさん」として、そんなことをさせられたという。

私は、その話を聞き、思わず笑ってしまった。当時、彼は、「おとうさん」と言えば、私の存在のことを思い浮かべたはずだ。とすれば、保育園で演じるようにと要請された「おとうさん」の姿や営みは、息子にとって、まったく見たこともない、なじみのないものだっただろう。

私はタバコをすわないし、これまで生きてきた人生経験から、できれば家庭内の性別役割という分業を壊したいと思い、毎日をすごしているからだ。掃除、洗濯はするし、夕飯の支度、後片付けもする。食事が運ばれてくるのを、あぐらをかいて待っていたことなどない。後片付けの後には、みんなにお茶を入れる。子どもの運動会や遠足の弁当は必ず作る、等々。

特にフェミニストを気取っているつもりはないし、男性学をことさら強調し、実践しているつもりもない。

息子は、普段からこうした私の姿を見ており、これが「おとうさん」だと思い込んでいたために、保育園のままごとで要請された「おとうさん」に強烈な違和感を覚え、戸惑ったのだろう。

そのとき私は、「家のことを全部きちんとやれるのが、男らしいんだよ」と息子に言い聞かせ、彼はしばらくそう信じていたようだった。もちろん、高校生になった今、そんなことは「おやじのたわごと」であり、世間ではそうではないことをわかりつつ、家での私の姿を見ているのだろう。

たとえば「おとうさん」というカテゴリーがある。それは単にある人間を呼ぶための道具ではない。そこには、いつ、何を、どのようにすればいいのかといった営みをめぐる実践的な処方がありついているのである。

家庭で、パートナーや子どもに対して、いつ、何を、どのようにすればいいのか。また、仕事場で、同僚や上司に対してどのようにふるまえばいいのか。そうした実践的な処方がありついているのである。

そして、私たちは「おとうさん」と呼ばれるとき、こうした実践的な処方に乗っかって、できごとを理解したり、個々の状況で“適切に”「おとうさん」を「している (doing)」のだ。

私は、世の中で支配的な「おとうさん」をめぐる実践的な処方を、自分の生活世界のなかで、一つずつ“無効”にしたいと考え、生きているといえよう。

「おとうさん」カテゴリーの話にこだわり続けるつもりはない。ただ、この例証で言いたかったのは、世の中に流布している、さまざまなカテゴリーや、それにはりついている実践的な処方を“鵜呑み”にして生きていくことは、気持ちのいいものだろうか、という問いかけだ。

そうしたカテゴリーを検討したり、吟味したり、調べたりすることなく、「あたりまえ」に生かしておくこと。それは、私たちが「カテゴリー化する実践」に囚われてしまっている姿であり、この囚われの様相を読み解く営みは、「人々の社会学」を調べるうえで、とても重要ではないだろうか。

(好井裕明『「あたりまえ」を疑う社会学 質的調査のセンス』, pp.200-203, 光文社, 2006年より、一部改変)

問1 下線部①「カテゴリー化とは何だろうか」について、「おとうさん」という「カテゴリー」を事例に、本文に即して160字以上180字以内でまとめなさい。

問2 作者は、本文に示した事例に基づいて、下線部②「世の中に流布している、さまざまなカテゴリーや、それにはりついている実践的な処方を“鵜呑み”にして生きていくことは、気持ちのいいものだろうか」と問うている。これについて、あなたの意見を具体的な事例に基づいて700字以上900字以内でまとめなさい。